

自己評価報告書(最終報告)

報告者

臨床心理士養成コース
／吉井 健治

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

テーマは、「地域におけるスクールカウンセラーの効果的な活用システムに関する研究」を考えている。徳島県内では地域でスクールカウンセラーを活用している実践事例があり、こうした事例をもとに活用モデルを検討する。

2. 点検・評価

予定通りには進まなかった。しかし、「地域におけるスクールカウンセラーの効果的な活用システムに関する研究」のための準備として文献研究を行った。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

本コースではこの数年間、数名の不足がある。そこで定員充足のための取り組みとして、他大学を訪問し効果的な広報活動に努めたい。また、講演や研究活動を通して積極的に本学の本コースをアピールしていきたい。

2. 点検・評価

講演、学会出張などの機会に、積極的に本学を紹介し、広報活動に努めた。平成25年度のM1は定員確保が達成された。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①学生相談に関して他大学のシステムを参考にしながら充実を図る。
- ②大学院生の就職及び資格試験のための支援を積極的に行う。

2. 点検・評価

- ①日本学生相談学会の研究雑誌を読んで学生相談のシステムや工夫について検討した。
- ②大学院生の就職及び臨床心理士資格試験のための支援を積極的に実行した。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

- ①複数の研究テーマに関して論文の執筆と投稿を行う。
- ②臨床心理士養成のための実習の方法論について検討する。

2. 点検・評価

- ①鳴門教育大学紀要に単著の論文1編を投稿した。
- ②スクールカウンセラー実習に長期間(最低6ヵ月以上)行った10名の大学院生を対象に質問紙調査及び面接調査を実施した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①委員会の仕事を積極的かつ適正に遂行する。
- ②大学院の定員確保のための取り組みを行う。

2. 点検・評価

- ①大学院教務委員、附属図書館運営委員の任務を積極的に行った。
- ②定員確保のために、積極的に広報活動を行い、受験者の問い合わせに丁寧に対応した。
- ③学生課に協力して学生相談を行った。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①スクールカウンセラーの活用に関して徳島県教育委員会及び市町村教育委員会と連携を図る。
- ②不登校の訪問臨床において徳島県立総合教育センター及び徳島市教育研究所と連携を図る。

2. 点検・評価

- ①スクールカウンセラーの活用に関して、関係機関と連携した。
- ②不登校の訪問臨床において、関係機関と連携した。
- ③徳島県ひとり親家庭訪問事業に協力した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

徳島県教育委員会からの受託事業で、「不登校の子どもへの訪問 十二の技」(平成25年3月発行)のパンフレットを作成した。これは、徳島県教育委員会と10数年間連携して行っているライフサポーター事業における成果の一つである。こうした教育委員会との継続的な連携を通して、本学に貢献することができた。